

ユニセフ T・NET 通信

2013 SPRING

No. 54

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (公財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

女子教育の厳しい現状

昨年10月、世界に衝撃を与える事件が起きました。マララ・ユスフザイさんという、パキスタン北部に暮らす15歳の女の子が、通学バスの中でパキスタン・タリバン運動家に銃撃されたのです。射撃された理由は、マララさんが11歳の時から女子教育を広める活動をしていたからでした。幸いにも彼女は命をとりとめ、治療先のイギリスの高校に通えるほど回復しました。しかし、帰国はかないません。この事件のように、今日においても、なお女子教育の状況は厳しいものがあります。ミレニアム開発目標でも女子教育の重要性が謳われ、男女間格差をなくすことが積極的に目指されている中、女子教育の現状はどのようになっているのか検証していきます。



©UNICEF/AFGA2010-00325/Shehzad Noorani

女子教育の現状

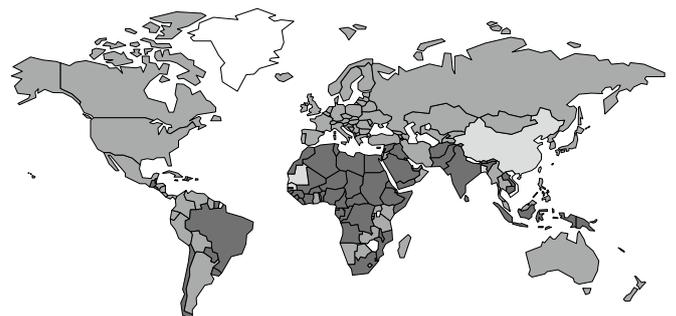
現在、世界における男の子の初等教育純就学率は91%、女の子の純就学率は89%と男女共にほぼ変わらない就学率となっています。また、【図表1】が示すように、世界の小学校の半数以上で男女の人数が均衡であり、初等教育における男女間格差は少ないように見受けられます。しかし、地域により格差は大きくなっています（【地図1】参照）。先進国での初等教育における男女の均衡は達成されていますが、サハラ以南のアフリカや南アジアと南アメリカの一部では、男の子が学校に通っている人数が多く、男女間格差があります。特にサハラ以南のアフリカは、

女の子の初等教育純就学率が74%と低く、保健・栄養分野のみならず、教育分野の面においても世界で一番厳しい地域です。

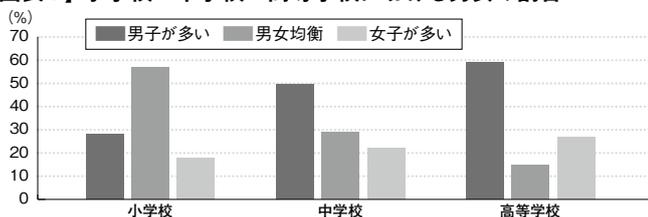
中等教育では、世界における男の子の純就学率は65%、女の子の純就学率は55%と初等教育よりも男女間格差がみられます。また、【図表1】で示されているように、中等教育における男女の割合は男の子が多い学校が半数近くを占め、男女間格差がより顕著です。また、初等教育同様、サハラ以南のアフリカは女

【地図1】初等教育における男女の割合

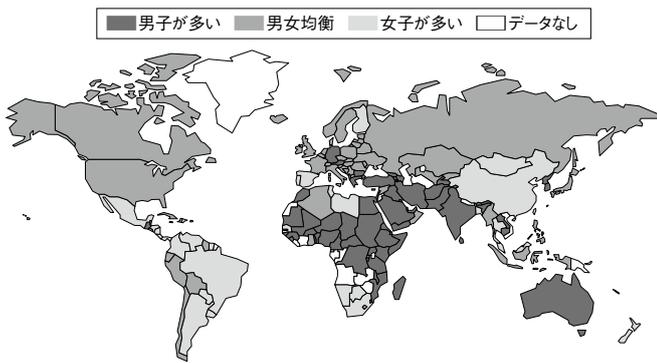
■ 男子が多い ■ 男女均衡 ■ 女子が多い □ データなし



【図表1】小学校・中学校・高等学校における男女の割合



【地図2】 中等教育における男女の割合



の子の中等教育純就学率が24%と世界で一番低く、学校へ通えない女の子の多くがサハラ以南のアフリカに集中しています(【地図2】参照)。(数値は「世界子供白書2012」より)

女の子が学校に通えない理由

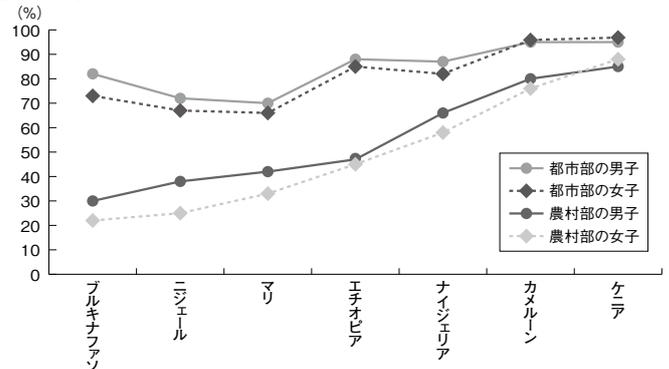
女の子が学校に通えない理由には何があるのでしょうか。マラさんの事件のように女性が男性より地位が低い社会では、女性は教育を受けるべきではない、家事をするのに教育は役に立たない、女の子は早く結婚して家を守るべきだ、といった伝統的な差別や習慣。金銭的余裕がなく男の子を優先的に学校へ通わせている貧困状況。家から学校まで遠く危険な地域を通って通わなければならないという地理的要因。学校に女の子用のトイレがないなど、女の子にとって居心地の悪い学校であるという設備の不十分さ。これらが女の子の学校へ通えない主な理由であると言われています。

また、たとえ小学校に入学したとしても、貧困のため女の子が家事を担わなければならなくなったといったことや、女の子に配慮のない教育の進め方から、中途退学してしまう女の子も多くいます。また、家の手伝い等で一度中途退学した女の子が再び学校に戻った時に勉強についていけないことや、他のクラスメートよりも年上となり学校に通いにくくなることも中途退学の原因であると言われています。初等教育において女の子が最終学年まで残る率は世界では76%であり、サハラ以南のアフリカでは61%までに下がります。

中等教育への女の子の進学はさらに厳しいものがあります。身体的に妊娠可能な年齢のため、結婚するのが当たり前とされる地域では、女の子が中等教育に通うことは無駄であるといった考えや、男の子を優位とみなす慣習が残っている地域では、女の子が受ける教育は最低限でよいという考えが、女の子の中等教育の普及を遮っています。

また、注目すべき理由に公平性の問題があります。初等教育の純就学率は84% (1999年) から90% (現在) (「世界子供白書2012」より) と増加し、多くの子どもたちが初等教育を受けることができるようになりました。しかし、これは都市部や裕福な家庭において就学率が上がったことによるものだと言われています。【図表2】によると、ブルキナファソでは、都市にいる女の子の初等教育の出席率は70%ありますが、農村部の女の子の出席率は20%程度です。ナイジェリアでは、都市にいる裕福な女性は9年の教育を受けていますが、農村の貧困状態にある女

【図表2】 都市部と農村部における小学校の出席状況比較



性は2.6年の教育しか受けていないと言われています。農村部の女の子が学校に通えていないということは、女の子であるという性差に貧富の差も加わり、公平性において大きな問題となっています。

女子教育は社会を変える鍵

ユニセフは、女の子が教育を受けられるように、男女の性差に配慮して教育を行うことができる教員の育成、男女の性差に配慮した学習教材の作成、地域の近くでの学校の設立、女子トイレの設置といった支援を行っています。公平性に焦点を当てた活動も行っており、都市部にいても教育が届きにくい、都市部で働く子どもたちに、読み書き、計算などを習える機会を提供しています。また、政府に働きかけ、厳しい状況にいる女の子も教育が受けられるように、奨学金制度の制定を促しています。ソマリアでは、奨学金制度により453人の女の子が教育を受けられるようになりました。その内の一人、フィルサンさん(14歳)は、貧困のため学校へ通う余裕がなく、3年間初等教育から離れていましたが、奨学金により小学校6年生に復学することができました。そして、将来医師になるという目標ができ、人生に対し意欲をもつことができるようになりました。



©UNICEF Somalia/2012/Dhayi
授業を受けるフィルサンさん

フィルサンさんの教育のあり方をみても分かるように、教育の普及、そして教育が社会に波及効果をもたらすまでは長い年月がかかります。しかし、教育は確実に社会を改善することができます。教育は貧困をなくす、平等で安定した社会をつくる鍵なのです。

【出典】

図表 1・2、地図 1・2 は UNESCO World Atlas of Gender Equality in Education 2012掲載図より翻訳・作成。

【参考資料】

- ・ PLAN : Because I am a Girl-The State of the World's Girls 2012
- ・ UNESCO World Atlas of Gender Equality in Education 2012
- ・ UNICEF Somalia News : 2 October, 2012